

図書館だより

北海学園大学附属図書館報 第28巻4号(通巻180号) 2007.1.22

vol.28

NO.4

Bulletin of the Hokkai-Gakuen University Library

石井晴子

2 Research 101の夢

3 大西有二 図書館よりもインターネット?!

4 菅 泰雄 2倍の自習時間と図書館の利用

5 大西真一 トゥールーズという響き

6 PCブースのご案内

8 市川大祐 大学図書館の思い出

編集後記



Research 101の夢

文＝石井晴子

(いしい はるか／経営学部教授)

また新しい年が明けてしまった。のつけから元気のない書き出しだが、自分に約束した仕事にまたもや手をつけられないままの年越しなのである。その仕事とはワシントン州立大学の図書館が提供している“Research 101¹⁾”というリサーチの仕方についてのオンライン・チュートリアル(指導法的一种)の日本語への翻訳である。翻訳といっても訳して本にするわけではない。この優れたもののウェブページは「クリエイティブ・コモンズ²⁾」という特別な著作権を持ち、使用しようと思う大学や施設がウェブ全体のコンテンツをダウンロードし、自分の施設の図書館のデータベース等にリンクをはる事ができる。つまり、勉強のためならばどの教育研究施設もご自由にお使いください、と言っているのだ。実際にクリエイティブ・コモンズを使用して前述の“Research 101”を使用している米国の大学は数校ある。日本では言語の問題もあつてか、まだこの秀逸のウェブを活用している大学はないようである。

なぜ私がこのウェブページに目をつけているかというと、担当する経営学部の授業科目のひとつである総合実践英語3年次科目の「リサーチ&プレゼンテーション」がきっかけである。学生にリサーチとは何ぞや、を英語で教えようと思ったのだが難しかった。そりゃそうだよ。やったことないもの！ と今思えば日本語でも難しいことをよく英語でやろうとしたものだとして反省している。それがおとし。“Research 101”を翻訳しようと心に決めたのだが、まだ実行していない。この“Research 101”が日本語になれば、どの学部の学生たちでも基本的な文献や資料の探し方、見つけ方、評価の仕方やリサーチのテーマのたて方を思う存分自学自習できるだろうと思い、翻訳を夢見ているのである。

こんな私を待っていてはいつ翻訳されるのかわからないし、薦めるのならば見てやろうか、という御仁にちよつとご紹介。まず、ホームページに行くと「このチュートリアルは6つのユニットから成り立っています。」と右の欄に英語で書いてあり、The Basics(基本)、Info Cycles(情報サイクル)、Topics(リサーチトピックの立て方)、Searching(参考資料の「探し方」) Finding(参考資料の「見つけ方」) Evaluating(参考資料の「評価の仕方」)の6項目の学習ができる。

特に私が入っているのは参考資料の「探し方」「見つけ方」「評価の仕方」が別々のサブジェクトとしてあるところである。参考資料をどうやって見つけたらいいかわからない、という学生に北海学園図書館のウェブページからここをこうやって…と教えるのだが、探した文献や本がどのような「価値」が自分のリサーチにあるのかを教えるのは別のステップである。本や文献の題名だけで先行研究の資料を集めると何十年も前の本に出ている言葉の定義で現代社会の調査を行ったり、どこの誰のものとも知れない「ブログ」などを「参考資料」にしかねないからだ。そしてなんとといっても無味乾燥になりがちなセルフスタディーを楽しくさせてくれるのが、動画を使った説明やクイズである。動画を見ているだけで、なるほど、と思わせるような説明なのである。

リサーチの資料を見つけるのは砂金堀みたいなので、やればやるほど動も良くなるスキルもあがる。そして、リサーチ力が上がると論理的思考力も向上する、と信じている。その手伝いをしてくれる“Research 101”の翻訳の手伝い、誰かしてくれないかなあ…。などと言っているからできないまま年を越したのでしょうかね。

¹ <http://www.lib.washington.edu/uwill/research101/>

² クリエイティブ・コモンズは創造的な作品に柔軟な著作権を定義するライセンスを提供するNPOです。
<http://www.creativecommons.jp/>

図書館よりも インターネット?!

文=大西有二

(おおにし ゆうじ/法学部教授)

1 世の趨勢(すうせい)?

「説明責任」って言葉、ご存じ? 企業の経営や政治・行政の世界で使われている言葉らしい。今朝(けさ)も、東京都目黒区議会の議長や議員さんらが、「政務調査費」とかいうお金の使い方をめぐって、テレビ局のレポーターから「説明責任を果たせ!」と詰め寄られていたね。

議長さんは「政務調査費」を使って、栃木かどこかへ自動車で行き、帰りは新幹線で帰り、駅から自宅までタクシーで帰ったところ、自動車とタクシーの領収証は「報告書」に添付(てんぷ)されているのに、新幹線代の領収証が添付されていないのはなぜか? と聞かれてたね。議長さん、「昔から、新幹線代の領収書は付けてなかった」。レポーター、「なぜですか? 新幹線でも領収証は発行されますよね。なのに、どうして添付しなかったんですか?」と。この「政務調査費」の件、目黒区では大問題になってるそう。某政党の議員6名が全員辞職したんだって!(東京新聞12月1日「HP・社会」)

ん? そこのあなた! 「政務調査費」って、なにか、知ってます? 自分で調べてね。学生なんだから。インターネットでも、調べられるでしょ?

2 そういえば、図書館は、どうした?

学生に報告を求めると、インターネットで調べたという学生が増えている。学生に、そのインターネット情報は誰が書いてるのかな? と尋ねると、決まって(100%!!)「分かりませんm(_ _)m」。情報の信頼性をチェックせずに、その(誰が書いたかも分からない)情報に基づいて報告しても良いんだ、という風潮(ふうしやう)

うちょう)が蔓延(まんえん)している? 禁止しようかなあ~('・c_・`)

3 なぜ、図書館に行かない?

いろいろな原因が考えられる。①行くのは面倒だ、行きたくない。②本を見ると虫ず(むしず)って言葉、知ってます? が走る。③一度、図書館で「職員の態度が横柄(おうへい)だった」など、イヤな思いをしたから二度と行かない。④読みたい本が図書館にはない。⑤使い勝手(つかいがって)が悪い……。③④⑤は、対策を立てることができる。できることは即実行! ちなみに(って言葉、知ってるかい?)、10年ほど昔、他大学の通信教育受講生が、北大や北海学園大学の図書館を回って、本学の学生図書コーナーが一番使い易かった、と言っていた。また、本学から北大大学院に進学したものが、「北大の図書館は雰囲気(ふんいき)が嫌いです。本学図書館の方がずっと良いです。」とも(目の前で)言っている。わたしにはワカランが……<(_)_>

4 図書館は誰のもの?

④の「読みたい本がない」とき、みなさんはどうしてますか? 購入希望図書や、授業で指定されているのに、ない本があれば、是非、教えてね。図書館はみなさん学生のものでもあるんだよ。

そもそも図書館に入れる本を、誰が、どういう基準で決めてるんだろう? 図書館は「説明責任」を果たして欲しいね(^_^)

2倍の自習時間と 図書館の利用

文=菅 泰雄

(すが やすお/人文学部教授)

大学における通常の講義の「単位」は、本来1時間の講義に対してその2倍の自習時間を当てることを前提に出されるものである。その意味で、講義に休まず出席し、試験を受けて「可上」の成績を得ても、本当はそれだけでは単位は認められない。教員の立場から言えば、単位を出してはいけないということになる。当然その2倍の自習を誠実に実行しているという信頼関係の上に立って、単位を出しているのである。しかし、このことが必ずしも学生に認識されていないように思われる。

宿題、レポートを頻繁に課すというのも、授業以外の学習時間を確保させるための一つの方法なのである。また教師としては、学生の知的好奇心のツボを刺激し、学習意欲をわかせて、授業以外にも自主的に勉強する気にさせるような理想的な講義を目指すべきと言える。その意味で、出るだけで分かったつもりになり、満足してしまうだけの「分かりやすい」授業は、「良い」授業ではないと言える。

この原稿を書いている今の時期、大学では授業改善のためということで、学生による「授業評価アンケート」が行われているが、毎年その結果を見せられる度に、理想的な授業とはほど遠い授業しか出ていないことを、イヤというほど思い知らされる。

担当教員のあたりはずれとは別に、学問の成果、そして「面白さ」が集積されている場所が図書館である。本来の「単位」を修得するための自習時間を過ごすためだけでなく、授業に飽き足らない学生にとっても、また、授業で学問の面白さに目覚めた幸いなる学生にとっても、図書館は有効に活用すべき場所である。

学生時代の恩師の一人は、よくおっしゃっていた。「時間を作って、図書館や本屋には出向くべきだ。

行く度に人間賢くなる。本屋の前を通るだけでも賢く見えるようになる。」と。果たして「通る」だけで賢くなるかどうかは疑わしいが、確かに図書館で勉強している学生を見かけるとなるほど頼もしく、そして賢そうに思える。

宿題、レポート、ゼミ発表の準備、そして卒業論文を書くための情報を得るとなれば、図書館を積極的に利用しないわけにはいかない。

近頃は、ネットで簡単にある程度の情報は得られるため、中にはネットの情報をつぎはぎしただけのレポートとはいえない代物、あるいはそれを丸写ししただけの卒業論文さえ出てくるという憂うべき時代になりつつあるようだ。

文献による情報にしても、ただそれをつぎはぎしただけのレポートは時折見かけることがあって困ってしまう経験があるが、最近では「基礎演習」などの科目で、レポートとはどういうものかという指導がなされていることで幾分改善しつつあるようである。

とりあえずの情報を得るには、確かにネットの情報は便利であるが、情報の質ということになると、学問的にあやしげな、いかかわしい情報も多いので注意が必要である。

情報の質を見極める目を養うためには、経験を通して身につけるしかないであろう。その良書をどうやって見つけるか。教師のアドバイスとともに、自ら良書を求める努力も必要で、時には「悪書」を手にしてしまい、時間の無駄になったという苦い経験は誰しもすることである。その結果として生じた、一見無駄と思われる時間も、「講義」以外の自習時間に含めることには、何ら問題はないと思われる。

トゥールーズという響き

文＝大西真一

(おおにし しんいち／工学部助教授)

あれは数年前の秋のことです。私は在外研修の地であるフランスのトゥールーズ (Toulouse) 市に到着して、日本からSAL便で送った本を知人宅に取りに行くときに、約束の時間を勘違いして遅刻してしまいました。平謝りの私に、フランス人の彼は、なぜかその部分だけ英語で「心配するな、ここはトゥールーズ」と言ってくれて、重い麻袋に入った数十冊の本を車で家まで運んでくれました。

トゥールーズはスペイン国境のピレネー山脈のそばにあるフランス第4の都市で、歴史は大変古く、その起源はローマ時代以前にまでさかのぼります。別名を「薔薇色の街」といい、旧市街など赤レンガ造りの建物が多いことでも知られています。14世紀の頃などは大変栄えたようで、フランス国に属していながら独自の自治権を持ち、トゥールーズ伯はフランス王より権力を持つ「無冠の帝王」とも言われていたそうです。市内には世界遺産のミティ運河とガロンヌ河が流れ、名産品は鴨やフォアグラなどで、近郊の名産品トリュフやカオールのワインなども含めるとグルメも満足させる街でもあります。

ここは日本が1998年のサッカーワールドカップの緒戦を戦った所でもあります。しかしこの街ではサッカーよりラグビーが盛んです。フランス人はイギリス人と並んでラグビーに情熱を注ぐという話を聞きますが、特に南フランス、さらにトゥールーズの周りの地方ではこの傾向が一層顕著です。この街のプロチーム“スタッド・トゥールレーザン”は、フランス代表のキャプテンや中心選手を多数抱えていて、華麗なパス回しのシャンパンラグビーでヨーロッパのチャンピオンの座を近頃何度も獲得した強豪チームです。日本のゴリゴリとしたラグビーしか知らない私には衝撃的に面白かったです。(ちなみに、2007年はラグビーのワールドカップがフランスで開催され、日本代表が9月12日にトゥールーズのスタジアムで試合を行う予定になっています。)

当時、近郊のチームにフランスリーグ初の日本人FW

プロ選手が在籍していて、彼に招かれた試合とその後のパーティーがまた不思議でした。どつき合いのように激しい試合をした両チームの選手全員が、数十分後には同じパーティーでお酒を飲んでいるのです。これが毎試合だそうです。パーティー中に試合の話になり、「関係プレーなどで周りの選手が約束事を守らない」と彼が不満を言いました。すると誰かが英語で「トゥールーズだから」と笑いながら言い返していました。

ところで、トゥールーズの郊外には航空産業の多国籍企業であるエアバス社があります。エアバス社はヨーロッパ各国で作った羽根や胴体の巨大な飛行機部品を、トゥールーズの工場で最終組み立てて出荷します。この前、日本にも現れた今話題の超大型機A380もここで組み立てられています。私の滞在中にも日本のある航空会社がA320を買い付けに来ていました。その会社の人は、「きちんと見張っていないと納期に向けた作業がなかなか進まなくて、そのせいでなかなか帰国できない」と嘆いていました。そして「これがトゥールーズってことですか?」とも冗談ほく言っていました。

さて、私が帰国するとき、再び本をSAL便で日本へ送り返すことになりました。数個の小包の内、1個だけはすぐに着いて、残りは2ヵ月後の到着でした。勝手にあの街の郵便局のいい加減な扱いのせいだと思い、「さ・す・が・トゥールーズ」と独り言を言った私は、そのとき自分で妙に納得してしまいました。今まで話に出てきた彼らはみな“Toulouse”でなく、たぶん“Too loose”と言っていたと理解できたからです。南仏人の性格を表す駄洒落が一年がかりでやっとわかり、最初にお世話になった彼に伝えたい気持ちになりましたが、今更言う方が申し訳ないと思い直してそれは諦めることにしました。

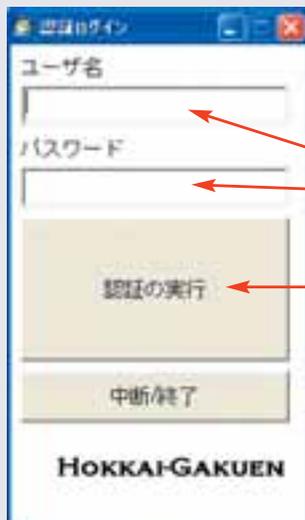
loose＝自由な、ゆるんだ、ずさんな、(だらしない)

PCブースのご案内

2006年10月11日より、認証制を導入し、利用方法が変わりましたのでご案内します。併せて、利用可能な電子ジャーナルを簡単にご紹介します。



1. ログイン手順

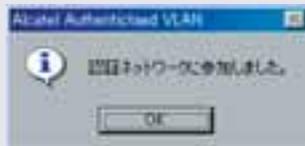


- ① パソコン起動時にログイン画面が表示されますので、ID・パスワードを入力し、『認証の実行』ボタンをクリックしてください。

ID(ユーザ名)・パスワードを入力

ID・パスワードを入力後クリック

- ② 「ログイン処理中」の画面が表示されます。



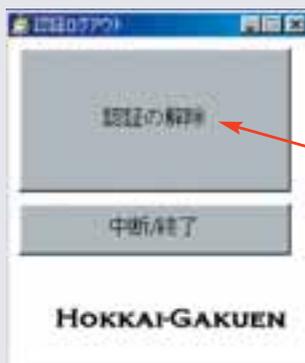
- ③ 認証処理が完了すると、左記の画面が表示されますので、『OK』ボタンをクリックしてください。

以上で認証ネットワークの利用が可能となります。



2. ログアウト手順

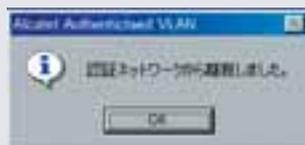
(終了後、必ず行ってください)



- ① デスクトップにあるコーヒーカップのアイコンを起動します。『認証の解除』ボタンをクリックしてください。

クリックするとネットワークの利用を終了します

- ② 「ログアウト処理中」の画面が表示されます。



- ③ 左記の画面が表示されますので、『OK』ボタンをクリックしてください。

ログアウトが完了してから、シャットダウンを行ってください。



3. 認証ネットワーク利用上の注意点

- ① 認証ネットワークでは、不正利用等が発生した場合に、記録データを追跡して、原因を追究できる環境となっています。
- ② 利用が終了した際には、終了（ログアウト）作業を必ず行ってください。もし、ログアウトが行われなかった場合、他の人がネットワークを利用できてしまいます。このときに不正行為が行われれば、記録はログインしていた利用者のもことになりますので、十分ご注意ください。

○電子ジャーナル紹介○

電子ジャーナルとは、主に学術雑誌を電子化し、インターネット上で閲覧できるようにしたものです。今回は当館HPから利用できるものをいくつか紹介したいと思います。

ID・PWが必要なもの カウンターにお申し出ください

- 北海道新聞データベース——北海道新聞の記事データベース（1988年7月1日以降）
- 官報情報検索サービス —— 1947年5月3日～当日発行分までの官報を検索できる
- LexisNexis —— LexisNexis社が提供する法律・医療ジャーナル等の情報検索サービス
- JDream II —— 科学技術振興機構が提供している科学技術文献データベース

ID・PWが不要なもの 学内ならどこからでも利用可能

- CiNii —— 雑誌や大学紀要などの記事・論文の索引データベース
- 聞蔵II —— 朝日新聞の記事データベース（1984年8月以降）
- 日経テレコン21 —— 日経新聞の記事データベース（1975年1月以降）
- EBSCOhost —— 人文・社会・自然・経済・経営など幅広い分野のデータベース
- Oxford Reference Online —— オックスフォード大学出版会から刊行された辞書・事典などを収録
- Oxford Dictionary of National Biography Online —— オックスフォード英国人名辞典のオンライン版
- Oxford English Dictionary Online —— オックスフォード英語大辞典のオンライン版

この他にも、学習に役立つデータベースがあります。当館HPの「電子情報サービス」をご覧ください。

大学図書館の思い出

文＝市川大祐

(いちかわ だいすけ/経済講師)

母校の図書館で心にまず浮かぶのは、なぜか総合図書館でもなく、所属学部の文学部図書館でもなく、農学部図書館である。卒業論文から大学院時代の研究では本当によく通った。

大学院に入り、講義中心から研究中心の生活になると、調査に出かける傍ら、大学に来るともつばら各学部の図書館をまわって資料を集めるというのが中心になる。私の場合、人文学研究科で「文学部」でありながら、「経済」史で「農業」関係をやるために、それぞれの図書館を回ることになる。必要な資料は多く経済学部図書館にあるが、私はよく農学部図書館にいた。一つには人が少なく落ち着いたこと、それから経済史関係の資料を相当そろえ、かつほとんど全ての書籍・資料が開架であったからである。ただし他学部の図書を借り出す場合、所属の学部の図書館で相互貸借の手続きが必要であったので、経済学部図書館や農学部図書館で借りたい資料が見つかったら文学部図書館に戻り、再び経済学部や農学部図書館に行き、などと真反対にある経済学部・農学部と、その間の文学部を右往左往した。(私が博士課程に進んだ頃に相互貸借は不要になった)。

普通は(本学の図書館も含めて)普段よく読まれる本、教科書、使用頻度の高い研究書などが開架され、戦前期の資料などは閉架になっているものだ。当時は院生でも所属学部でなければ経済学部図書館の書庫には入れず、請求票で資料を出してもらった必要があった(資料が多いときは便宜的に入れてもらったが)。しかし、実際書架にある資料を見ると、OPACやカードでの検索で気づかないような資料にふと「出会う」ことがある。全てが開架式の農学部図書館は、資料との出会いが楽しく、かつ便利であったのである。戦前期の帝国農会報や

統計類、農村調査書など農業関係はもちろんだが、主要各社の社史類や東洋経済新報など経済史関係の資料も手に取れる形で並んでいるのは魅力であった。

表紙裏の貸し出しカードを見ると、自分が初めての読者であるか、あるいは、その本が出された前後(1930年代とか)に借り出されたまま、自分が戦後初の読者というのがけっこうあった。最先端の研究はその数年間読まれて、何十年後に歴史研究者に使われることになるわけだ。試験前を除けば、農学部図書館はいつも静寂につつまれていて、格好の環境であった。全てが開架式というのは逆にいうと書庫内にいるのと同様で、中2階が増設され、ぎっしりと詰められた書架の間に入ることになる。「地震の際には書架から離れてください」との注意書きがあったが、離れるどころか、後ずさりする場所も無い場所で本を読んでいると、ふと今地震に見舞われたらとの考えがよぎった。

ともかくも院生になって感動したことの一つは、総合図書館の書庫に入れるようになったことである。各学部の専門図書館に対し、総合図書館の書庫は文字通り総合で、ごった煮の内容に目を奪われ、自分の研究も忘れて関係ない本を読みふけったりした。冬の金属製書架は近づけばバチツと静電気が飛び、恐ろしいものがあったが。

普段請求票で出している資料に直に触れることは、先に書いたように思わぬ収穫もあるし、なくても普段であれば気づきもしない分野外の棚を見ることもできた。本学の図書館書庫、特に地下の集密書架は宝の山で、歩くとも必ず発見があり楽しい。皆さんもぜひゼミの先生などをお願いして、図書館ツアーなどで書庫をご覧になることをおすすめしたい。くれぐれも静電気には注意して。(鍵など金属を手を持って先に逃がすといいですよ)。

編集後記

あけましておめでとうございます、ビッグフットです。とうとう新年が明けてしまいましたが、いかがお過ごしでしょうか。忘・新年会など宴会続きの時期ですが、酒にも負けず、風邪にも負けず乗り切りたいところですね。ところで、みなさんはこんなことわざを聞いたことがあるでしょうか。～「馬鹿の足」～?!? ビッグフットを完全に馬鹿にしているこの言葉、…許せません。しかし何の根拠で言われているのかさっぱり分からず、辞典を開いてみると『大きな足は馬鹿のしるしである「俗説」』と記してあるではありませんか! さらに「俗説」を調べると「確かな根拠もなく、世間に言い伝えられている話」…あまりにもヒドイことわざであることが判明したので。足は大きい馬鹿じゃない!! こう胸を張って叫びたい!…ビッグフットの新年はこんなふうに明けたのでした。

出不精になりがちなのこの寒い時期、日本古来の言葉やことわざの意味などを調べてみるのも面白いかもしれませんね。図書館には色々な辞典があるので、一度開いてみてはいかがでしょうか。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより 第28巻4号 (通巻180号)

本館 〒062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号 工学部図書室 〒064-0926 札幌市中央区南26条西11丁目1番1号
TEL (011) 841-1161 (本館内線) 2273・2274・2275 (工学部内線) 7813・7814 印刷所: (株) アイワード